

農作物技術情報 第8号 水稻

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

◆ 今年の栽培管理から、生育に対応した必要な対策を実施できたか、コスト面での無駄はなかったか等、来年に向けて振り返りを行いましょう。

1 本年の生育経過

(1) 育苗期

県内のは種盛期（50％）は、平年より1日早い4月15日頃となりました。育苗期は気温が高く、日照時間も多く推移したことから、概ね良質な苗質が確保されました。一方で、高温の影響により、一部地域では細菌病類の発生が多くみられました。

(2) 活着～分けつ期～幼穂形成期

県内の移植盛期（50％）は平年並の5月17日頃となりました。終期（90％）は5月25日頃で、平年より1日遅くなりましたが、各地域とも概ね適期内に田植え作業が終了しました。

5月第5半旬の低温により、一部では活着後の初期生育に遅れがみられました。

6月第2半旬および6月第5半旬の低温・寡照の影響により、分けつ期の茎数は6月中旬で平年比97％、6月下旬で同87％となりました。

その後、7月第2半旬から第5半旬にかけて気温が高く推移したことから生育は回復し、幼穂形成期は平年より1日遅い7月9日頃、減数分裂期は平年並の7月21日頃となりました。

なお、8月1日から2日にかけての大雨により、一部地域で冠水被害が発生しました。

(3) 出穂・登熟期

県全体の出穂盛期（50％）は、平年並の8月3日頃となりました。

登熟前半に当たる8月第2半旬から第5半旬にかけて、気温が平年並からやや高く推移したことから、登熟は順調に進みました。一方、8月第6半旬以降は低温・寡照傾向となり、降水量が多く、収穫作業の遅れが懸念されましたが、好天時を活用して刈取りが進められ、刈取り盛期（50％）は平年より1日早い10月1日頃となりました。

(4) 本年の作柄

9月25日現在、岩手県の予想収量（農林水産省東北農政局、令和8年10月13日公表）は、10a当たり522kg（篩い目幅1.90mm）、作況単収指数98と見込まれています。

2 来年の作付けに向けて

(1) 育苗

育苗設備や人員体制、作業スケジュールを点検するとともに、基本に立ち返って必要な技術対策（浸種水槽の保温対策、プール育苗等の技術導入）を講じます。また、病害の発生リスクを減らすために、育苗箱等の資材の洗浄、施設内の清掃を徹底し、清潔な育苗環境の維持に努めます。

本年発生が多かった細菌病類の発生防止に向けては、今後発行する技術情報等を確認の上、対策

を徹底してください。

(2) 本田管理

ア 初期生育の確保

初期生育の確保のため、育苗管理や移植後の水管理、栽植密度・植付本数をチェックします。

イ 中干しの適切な実施

中干しには、過剰分げつの発生や下位節間の伸長を抑える効果があり、倒伏軽減につながります。遅くとも6月25日頃には目標茎数を確保して中干しを開始できるよう、移植時期や生育前半の管理を確認します。また、中干し期間を延長する際は、過度の中干しは減収につながる場合があるので、強度の中干しを避け、幼穂形成期までに中干しを終えるようにします。

ウ 病害虫・雑草防除

病害虫・雑草の発生状況や栽培管理について振り返り、適期に防除が実施できるように防除計画を立てます。

エ 登熟を低下させない水管理

登熟前半に高温が続く場合、登熟不良や玄米品質の低下を招く恐れがありますので、夜間かんがいや土壌を常に湿潤状態に保つ管理など、地域のかんがい水の状況に応じた水管理を検討します。

オ 適期刈取り

刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めます。近年は高温により出穂期や成熟期が早まる傾向にあります。早い段階から刈取り時期の見通しを立てるとともに、乾燥調製施設の運用が円滑に行われるよう、稼働計画の策定や設備点検などの準備を進めておきます。

カ その他

必要な栽培管理がもれなく実施できるよう、現在の営農体制（作業暦や人員、機械装備）と作付規模を照らして、必要に応じて見直しをするとともに、複数品種の作付や苗質の変更、直播栽培などの技術導入による作業分散も検討します。

3 稲作の低コスト・省力栽培技術の導入に向けて

肥料・燃油価格は依然として高い状況にあります。以下の観点も踏まえながら総合的なコスト低減・省力化に努めます。

- ・ 作付面積の拡大（規模拡大）⇒ 10aあたり生産費の低減
- ・ 生産量の増加（収量増加）⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ・ 販売単価の向上（有利販売）⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

岩手県では下記のマニュアルを岩手県ホームページに掲載しています。是非一度ご確認ください。

低コスト稲作栽培技術マニュアル（令和5年4月）

https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/007/686/manual_r0504_4.pdf

岩手県肥料コスト低減技術マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page/_002/004/581/hiryokusutoteigen0406.pdf

岩手県スマート農業事例集（令和7年3月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page/_002/003/505/iwate_smartagri_jirei_v5.pdf

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

農作物技術情報「水稻」の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ **大豆** 収穫時期を迎えています。汚損粒発生防止のため、事前に青立ち株や大型雑草を抜き取り、子実水分・茎水分の低下を確認のうえ、速やかに収穫を行いましょう。
- ◆ **小麦** は種後に除草剤を散布していないほ場では、小麦の生育や雑草の発生状況、草種に応じた土壌処理剤を選択し、必ず除草剤を散布しましょう。また、ほ場が乾いた条件では積極的に麦踏みを行い、凍上害や倒伏防止に努めましょう。

1 大豆

10月上旬からの冷え込みにより葉の黄化・落葉が進み、成熟期は概ね平年並み（生育診断ほ・北上本年：10/16 平年：10/15）となりました。現在、収穫時期を迎え、順調に落葉・成熟が進んでいますが、一部では、落葉しない青立ち株が見られます。青立ち株は茎水分が低下しないため、汚損粒の原因となります。汚損粒を発生させないように、青立ち株の撤去や茎水分の低下を確認するなど、的確な収穫期の判断が必要です。

(1) 収穫前の抜き取り

青立ち株や大型雑草などは収穫前までにはほ場から撤去してください。青立ち株や大型雑草等は汚損粒の原因となるだけでなく、コンバインのカッター等で切断されず、リール周辺で豆に接触して裂莢を増加させることがあります。また、オペレーター等が刈取りに集中できず、大幅に作業効率が低下します。

(2) 適期収穫

収穫適期（茎水分 50%以下、子実水分 18%以下：分枝が手でポキポキと折れる時期が目安）に達した大豆は速やかに収穫してください。晴天等が続くと裂莢が急激に進むほか、子実水分が低下しすぎると乾燥調製時などに豆が割れやすくなります。また、収穫が遅れると紫斑粒やしわ粒、腐敗粒の発生が増加します。収穫作業のポイント等は「農作物技術情報第7号畑作物」（令和8年9月24日発行）をご覧ください。

2 小麦

9月下旬から10月中旬は好天の日が多く、土壌の乾燥が進みました。このため、適期には種できたほ場が多く、出芽、初期生育は良好です。

既に、は種適期を過ぎていますので、これからは種を行う場合は年内にできるだけ茎数を確保するため、は種晩限から1週間遅れるごとに、は種量を10%増やしてください。

(1) 雑草防除

小麦栽培において難防除雑草とされているイタリアンライグラスなどの越年生のイネ科雑草は、発生後には除草する手段がありません。土壌処理剤を適切に使用し、発生させないことが重要です。

小麦4葉期まで使用可能な土壌処理剤もあります。は種後に土壌処理剤を散布していないほ場では、除草剤の登録内容を確認し、土壌処理剤を必ず散布してください。

(2) 麦踏み

表1にあるように、麦踏みは茎数の増加や倒伏防止などに大きな効果があります。近年雪が少な

い年が続いていますが、積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や、土壌が軽い火山灰土などでは、麦踏みは特に有効です。**積極的に実施してください。**

ただし、ほ場が乾いていることが実施の条件となりますので、排水不良のほ場や**土壌水分が高い場合**、あるいは**碎土率が極端に低い場合は実施しません。**

※麦踏みの実施方法・実施時期

- ・鎮圧ローラーやタイヤなどを用います。
- ・実施時期は、小麦4葉期～雪解け後の茎立ち前（概ね4月上旬）まで。
- ・回数は、越冬前・越冬後それぞれ1回以上を目標にします。暖冬年やは種が早い場合は回数を増やします。

表1 麦踏みの主な効果

効 果	内 容 等
茎数の増加	主稈や早期分げつを一時的に抑制する芯止めの効果などによる。
倒伏の防止	節間伸長の抑制や草丈の短縮、稈基部の重量増大によるもの。
凍上害の防止	霜柱の発生による根の浮き上がり等による枯れ上りを防ぐ。
耐寒性と耐干性の強化	麦踏みにより葉が傷つけられ、それ以降細胞溶液の濃度が高まる。
生育の均一化	主稈や早期分げつの生育が抑制される反面、弱小分げつの生育が促進され、全体として生育がそろふ。

(3) 雪腐病類の防除

雪腐病類は、本県では通常、紅色雪腐病（写真1）、雪腐褐色小粒菌核病（写真2）が発生し、県北部や高標高地など根雪期間が長い地帯では、雪腐黒色小粒菌核病（写真3）が発生します。

県北部や高標高地帯など、**根雪期間が長い地域では薬剤防除を行います。**

雪腐病は品種の耐雪性の強弱によって被害の出やすさが異なり、「ナンプキラリ」や「銀河のちから」は大きな被害になりやすいので、**注意が必要です。**

雪腐病は連作ほ場ほど発生が多い傾向が見られます。このため、融雪剤散布や追肥の実施などの融雪時の基本的な対策に加え、常発地では輪作の導入を検討してください。



写真1 紅色雪腐病
遠望するとほ場が淡紅色に見える。菌核は作らない



写真2 雪腐褐色小粒菌核病



写真3 雪腐黒色小粒菌核病

(4) 排水路の点検

額縁明きょは適切に排水路に接続しないと、逆に滞水の原因となります（写真4）。明きょや排水路の点検整備を行って、滞水による湿害等を防いでください。



写真4 明きょがしっかり施工されず滞水した様子

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら．．．
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 栽培後地では、来年の安定生産に向けた作業（残さの処分、資材消毒、土づくり）を行いましょう。
- ◆ 施設 野菜 冬期は省エネ対策技術を積極的に実施しましょう。
- ◆ 寒じめほうれんそう ハウスの適切な開閉により株の充実を図り、適期に出荷しましょう。
- ◆ 促成アスパラガス 低温遭遇時間を考慮して適期に掘り取り、収量を確保しましょう。

1 生育概況

- (1) 果菜類の収穫は、露地作型では気温低下により栽培終了または栽培終盤となっています。施設作型では気温低下により生育が緩慢となっています。
- (2) 雨よけほうれんそうの生育は概ね良好です。病虫害は、シロオビノメイガ、ハウレンソウケナガコナダニの被害が見られますが平年より少ないです。寒じめほうれんそうの播種は概ね終了しました。
- (3) ねぎは概ね順調に生育しており、収穫も順次進んでいます。病虫害は、葉枯病（黄色斑紋病斑）や黒斑病の被害が見られます。

2 技術対策

(1) 共通

ア 栽培後の整理と来年に向けた病虫害対策

栽培終了後の作物残さや越年して使用する資材は、翌年の病虫害の発生源になります。栽培終了後の作物残さは年内にほ場外に埋却処分し、越年して使用する資材は資材消毒を行います。

かん水装置等、冬期間使用しない機器は、凍結による破損等を防ぐため、水抜き等の凍結防止を行います。

- (ア) きゅうりでは、褐斑病が毎年多発するほ場は、支柱やかん水チューブなどの資材に付着した分生子が翌年の発生源になります。残さの後片づけと資材消毒を行い、翌年の発生源を排除します。
- (イ) ピーマンでは、根の残さで土壤伝染性ウイルスのPMMoVが越年します。土壤中のウイルス密度を高め、抵抗性打破の危険性が高まるのでほ場への残さのすき込みは絶対に避けてください。
- (ウ) なすでは、半身萎凋病の病葉に形成された菌核が次年度の発生源となりますので、発生ほ場では葉を確実にほ場から持ち出し処分してください。
- (エ) 冬期間作付がないハウスは、害虫の越冬を防ぐため、ビニール除去や妻面等を開放して長期間寒気にさらします。冬期間に葉菜類等を作付する場合はハウス内の除草に努めてください。

イ 来年に向けた土づくりと施肥管理

野菜栽培では、長年、同じ作物を作付けする事例が多いため、基盤となる土づくりが重要です（図1）。

- (ア) 有機物の施用による生物多様性の確保
- (イ) 耕盤破碎、深耕等による物理性の改善
- (ウ) 土壌診断等による化学性の維持改善

なお、県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどが土壌改良目標値を満たしたほ場が多く、無施用でも良い水準まで蓄積している事例もあります。また、カリウム過剰はカルシウムの吸収を阻害し、尻腐果発生の一因にもなります。

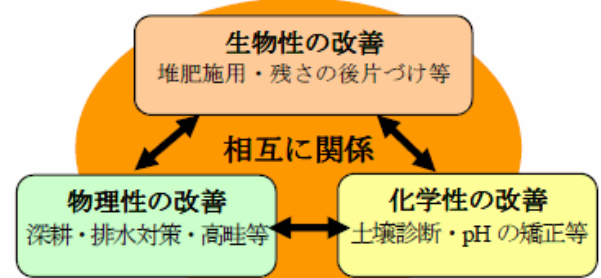


図1 土づくりで重要な三つの性質

- (ア) **土壌診断を実施**し、適正施肥に努めてください。
- (イ) 土壌改良目標値を満たしているほ場では、「土壌から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用し、土壌養分の蓄積を防ぎます。
- (ウ) 土壌養分が過剰な場合には、減肥基準に基づいた適正な施肥管理に努めてください（図2）。

なお、各品目の補給型施肥基準や減肥基準の詳細については、各地域の農業改良普及センターにお問い合わせください。

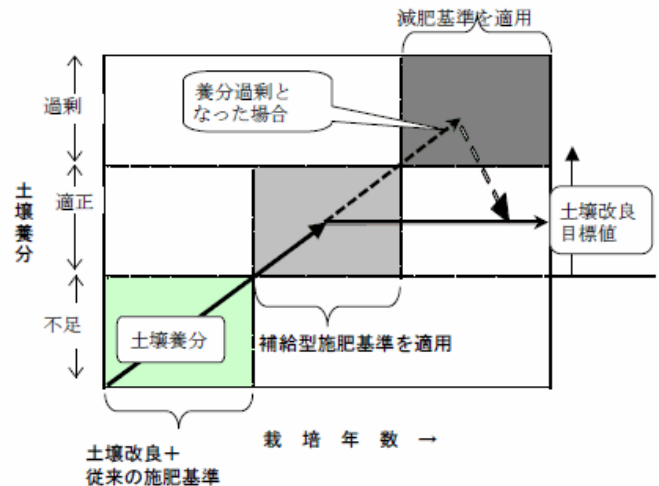


図2 土壌養分に応じた施肥管理基準の適用

(2) 施設野菜

燃油費や資材費などを含めた冬期における施設野菜の生産コストの増加は、農家経営に大きく影響します。最小限の燃油で高い加温効果が得られるよう、省エネルギー対策を積極的に実施します。具体的には、

- ア 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止
 - イ 温室の被覆資材の隙間の補修などによる放熱防止
 - ウ 内張資材などの導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消
 - エ 作物・品種の特性をふまえた生育ステージ毎の適正な温度管理の実施
- などが挙げられます。

(3) 寒じめほうれんそう

ほうれんそうの伸長は5℃以下でほぼ停止するため、それまでに長さを確保する必要があります。また葉長を確保した後は、確実に5℃以下の低温にさらすことが糖度上昇にとって重要になります。

- ア ハウスの開閉による適切な温度管理を行い、出荷できる葉長まで生育させます。
- イ ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開け、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させる「寒じめ」を行い、糖度の上昇を図ります。
- ウ 本県では、葉柄のBrix値8%以上を出荷基準としており、この糖度が得られる12月以降に出荷します。

(4) 促成アスパラガス

貯蔵根の糖度が収量に影響するため、低温遭遇時間を目安に根株の掘り取りを行い、伏せ込み後は水分や温度の管理を適正に行います。

- ア 地上部の刈取りは茎葉が十分に黄化してから行います。
- イ 十分に低温遭遇した株を利用することで、収量が増加する（図3）ので、5℃以下の積算遭遇

時間 90 時間以上を目安として、掘り取り時期を決定します（表 1， 2）。

ウ 伏せ込み準備は、ハウス内に温床を設置（図 4）し、保温対策を万全にします。

エ 伏せ込み後 1 週間～10 日程度は無加温とし、徐々に地温を 16～18℃まで上げるようにします。

オ 萌芽開始後は、地温 15～16℃、トンネル内気温日中 25℃以下、夜間 10℃以上を目標にします。

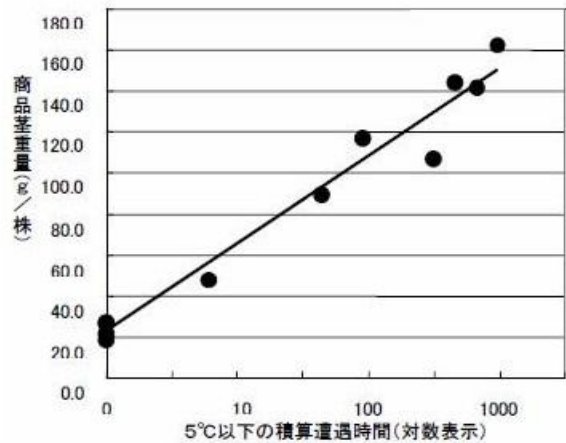


図3 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係
（商品茎：5 g以上の若茎）

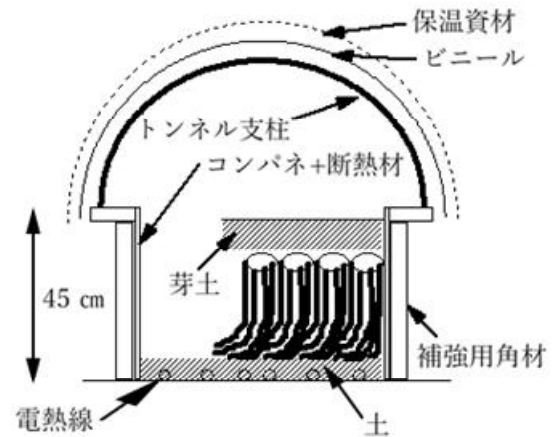


図4 促成アスパラガス温床の設置例

表 1 過去 5 年間の 5℃以下の積算遭遇時間が 90 時間に到達する日（2021～2025 年）

年	奥中山	二 戸	盛 岡	北 上
2021	10 月 25 日	10 月 30 日	11 月 17 日	11 月 24 日
2022	10 月 24 日	10 月 28 日	11 月 7 日	11 月 15 日
2023	10 月 26 日	11 月 12 日	11 月 16 日	11 月 23 日
2024	10 月 30 日	11 月 7 日	11 月 18 日	11 月 20 日
2025	10 月 28 日	10 月 30 日	11 月 8 日	11 月 16 日
平均	10 月 26 日	11 月 2 日	11 月 13 日	11 月 19 日

表 2 令和 8 年度の 5℃以下の積算遭遇時間（2026 年 10 月 25 日まで）

二 戸	奥中山	盛 岡	北 上
54 時間	83 時間	28 時間	6 時間

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 花き

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 今年の栽培を振り返り、翌年の作付計画を立てましょう。
- ◆ りんどう 残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行いましょう。
- ◆ 小 ぎ く 計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

極晩生品種の出荷が終盤となっており、間もなく出荷終了となります。病虫害の発生は少なくなっています。

2 栽培管理

(1) 茎葉の刈払い

刃物を使っての刈払い作業を行う場合は、ウイルス病の感染を防ぐため、完全に枯れてから行います。極晩生品種では、冬期まで株元の茎が枯れずに残る場合があります。その際、無理に株元から折り取ると株を傷める場合がありますので、枯れた部分までを折り取って翌春に残りの茎を除去します（写真1）。

また、枯れ茎は、ハダニ類やリンドウホソハマキの越冬場所になります（写真2、3）。刈払った茎葉は、ほ場内に放置せず、必ずほ場外で処分します。



写真1
茎葉の刈払い例（極晩生品種）



写真2
枯れ茎内で越冬するリンドウ
ホソハマキの幼虫



写真3
枯れ茎内で越冬するハダニ類

(2) 除草

秋の除草により翌春の雑草の発生量が減少します。また、除草は害虫の越冬場所を減らすことにもつながりますので、ほ場の周囲も含めた除草を行います。

(3) 株の保護

積雪の少ない地域では、新植ほ場でまだ株が小さい場合や極早生種など根張りの弱い品種に対し、越冬芽の凍結防止や浮き上がりによる塊茎の露出防止を兼ねて土寄せや芽土をします。マルチを温存しているほ場では、準備した無病の土を越冬芽が隠れる程度に被せる芽土を行います（写真4）。



写真4 芽土の例

(4) 排水対策

雪解け水がほ場内にたまらないように排水路を設けます。特に、ハウス栽培では雪解け水がハウス内に浸み込まないように、周囲の排水溝の設置やサイドのビニールや畦畔板の埋め込みにより対策します（写真5）。



写真5 ハウス周囲の排水溝の設置例

3 株更新

安定した収量を確保するためには、計画的なほ場更新を行い健全な株を維持することが重要です。今年のほ場や品種ごとの生育状況や単収を振り返り、株養成期間を考慮しながら株更新を進めます。

近年、気温が高く、盆需要期向けの早生品種では、開花時期が早まる年や高温障害が発生する年が多くなっています。株更新する際は、各地域での品種ごとの開花時期を確認し、**盆需要期に開花する品種や高温障害が少ない品種への転換**を図ります。また、気象条件による開花時期の変動も考慮し、複数の品種を配置するようにします。

来年新植を予定しているほ場では、秋のうちにたい肥3～4 t／10 aを施用し、粗起こしや明きよの整備を行います（写真6）。また、土壌診断を行い、施肥設計の準備をします。



写真6 水田転換畑の明きよの設置例

小ぎく

1 生育概況

10 月咲き品種の出荷が終盤となっています。りんどうと同様に、病害虫の発生は少なくなっています。また、親株の伏せ込み作業が始まっています。

2 栽培管理

(1) 伏せ込み

親株の伏せ込み作業は、11 月上旬頃までに行います（写真 7）。株を掘り上げる際、病害虫がないことを必ず確認します。特に、本畑で白さび病やべと病、半身萎ちょう病が発生した場合は、発病株を伏せ込み床に持ち込まないよう注意します。



写真 7 伏せ込み後の親株

(2) 伏せ込み後の管理

活着までは土壤水分を確保し、夜間低温が予想される場合はトンネルやべたがけで保温します。活着後は、日中ハウスを開放し、夜間は凍らない程度の温度管理とします。かん水は伏せ込み直後に十分に行い、活着後は、土の表面が乾いたらかん水する程度に控え、極端な乾湿条件とならないようにします。

(3) 台刈り

秋冬期高温で経過した場合、株やかき芽伏せ込みでは年内に茎葉が繁茂することがあります。その場合は、12 月中旬頃に株の若返りと病害虫の除去のため、地上部を刈り込みます（写真 8）。この時、地下部から出てきた新芽は残すようにします。



写真 8 台刈り後の親株

3 来年の栽培計画

これまでの品種ごとの単収、単価、病害虫の発生状況などを考慮し、来年の栽培計画を立てます。特に、白さび病で毎年苦慮している品種、高温で開花が遅れる品種、例年下葉枯れが発生して出荷ロスが多いほ場では、作付品種の見直しや、ほ場の変更など、積極的な対策を検討します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 果樹

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 果実生育（横径）は前年をやや上回り、概ね平年並になっています。「ジョナゴールド」の果実品質は、平年より糖度がやや高く、10月上旬から中旬に収穫期を開始しました。「ふじ」も適期収穫に努めましょう。

りんご

1 生育概況

(1) 果実肥大

10月1日時点の生育診断ほの果実生育（横径、県平均）は、「ジョナゴールド」が平年比100%、前年比104%、「ふじ」が平年比106%、前年比107%です（表1）。

開花が平年より8日程度早く、前年のような夏季の干ばつがなかったことから、生育は前年をやや上回り、概ね平年並になっています。なお、降霜による花器の萎縮が確認された園地は、開花が遅い側果も利用しており、果そう間で果実の肥大にばらつきが見られます。

表1 県内生育診断ほの果実生育調査結果（10月1日現在）

（単位：mm）

市町村	地 区	ジョナゴールド					ふ じ				
		本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比	本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比
岩手県農業研究センター		94.9	92.7	102%	93.1	102%	85.1	86.3	99%	84.5	101%
盛岡市	三ツ割	91.6	91.0	101%	88.7	103%	88.6	85.0	104%	77.9	114%
花巻市	石鳥谷※2	91.0	91.0	100%	88.2	103%	90.2	84.0	107%	85.6	105%
奥州市	江刺樽輪	84.4	86.9	97%	78.0	108%	87.3	83.5	105%	78.7	111%
一関市	狐禅寺※3	92.1	91.5	101%	90.8	101%	85.8	83.7	103%	84.1	102%
陸前高田市	米崎	89.5	91.5	98%	90.0	99%	94.4	85.5	110%	86.4	109%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	96.7	87.9	110%	91.1	106%
二戸市	金田一	95.5	91.3	105%	88.8	108%	93.0	87.8	106%	90.3	103%
県平均値※1（参考）		90.7	90.5	100%	87.4	104%	90.9	85.3	106%	84.9	107%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子（前定点）の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉（前定点）の値を使用。

※4 平年値は昭和60年～令和7年の平均（地点変更時はその年次からの平均）

(2) 果実品質

10月11日時点の「ジョナゴールド」の果実品質（県平均）は、硬度及びデンプン指数は概ね平年並、糖度は平年よりやや高く、各地域は、10月上旬から中旬にかけて収穫を開始しました。また、10月上旬は、最低気温が平年を下回る日もあり、果実の着色は比較的順調に進みました（図1～3）。

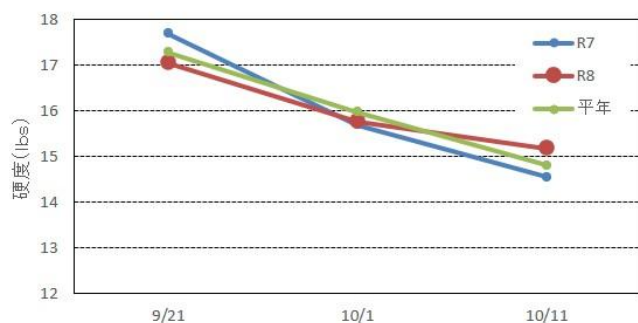


図1 ジョナゴールドの硬度の経時変化(県平均)



図2 ジョナゴールドの糖度の経時変化(県平均)

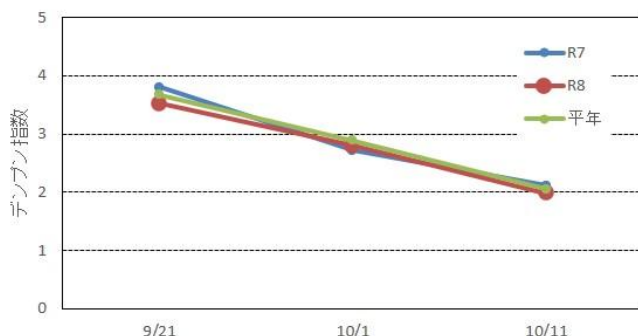


図3 ジョナゴールドのデンプン指数の経時変化(県平均)

2 栽培管理の要点

(1) 晩生種の収穫

「ふじ」は食味を重視して収穫します。着色や蜜入りを意識し過ぎて遅くまで収穫しないと、果肉の軟化や果実の樹上凍結、降雪による収穫の遅れが懸念されるので、適期収穫を心がけます(表2)。また、養分の消耗が、樹体の凍寒害につながる恐れもあるので注意してください。

なお、生育診断ほにおける10月21日時点の「ふじ」の果実品質は、平年並から平年よりやや進んでいる傾向がみられます(データ省略)。11月1日以降に各農業改良普及センターが提示する調査結果も参考にしながら、適期収穫に努めてください。

表2 ふじの収穫開始期の目安

品種	満開日※	販売時期	満開日 起算日数	満開日起算による 収穫予想日○	硬度 (lbs)	糖度 (%)	地色 カラーチャート 指数	ヨード 指数
2月～4月末 165～175日 10月11日 ～ 10月21日								
ふじ	4月29日	即売～3月末	175～180日	10月21日 ～ 10月26日	14以上	14以上	4～5	1～2
即売～年内 180～185日 10月26日 ～ 10月31日								

※ 満開日は農業研究センター観測値。

○ 収穫予想日は、満開日より機械的に算出した数値(目安)です。収穫にあたっては果実品質を確認の上、実施してください。

(2) 果実の樹上凍結の回避

樹上で果心部まで凍結した果実は、内部褐変、硬度の低下、食味の低下などの果実品質が低下します。特に、収穫後常温においた凍結果実は、内部褐変が著しく増加し、冷蔵貯蔵でも貯蔵20日以降に増加することが認められています(図4、5)。

したがって、このような果実の樹上凍結を回避するためには、販売時期からみた収穫適期を守り、過度に遅い収穫は避けてください。

凍結果実は押し傷がつきやすく品質の低下を招くので、被害を受けた際は樹上で解凍してから収穫します。また、速やかにJA等関係機関と協議の上、販売する場合は冷蔵貯蔵し、光センサー選果機等で褐変果を排除してください。

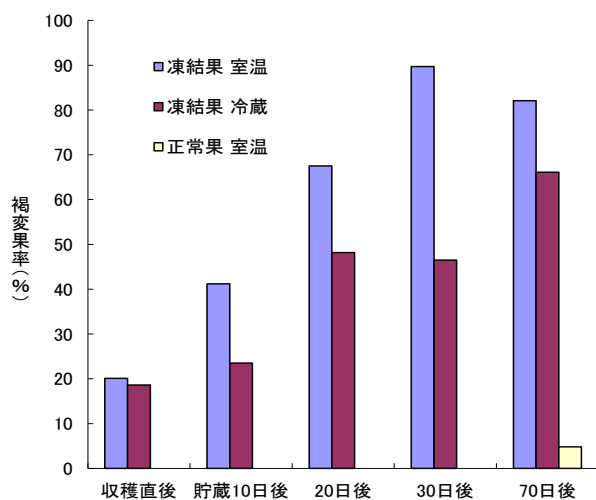


図4 果実の内部褐変率の推移



図5 内部褐変の様子

(3) 風害防止対策

11月は発達した低気圧の影響で、思わぬ風害が発生する場合があります。強風で倒木が発生しないよう、**防風ネットの設置や支柱との結束**を改めて確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては低気圧の接近前に収穫可能な晩生種は収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(4) 病虫害防除対策

黒星病や褐斑病の発病葉・発病果は翌年の伝染源となるので、葉摘みや収穫作業の際に発病が確認された場合は見つけ次第摘み取り、土中に埋没させるか焼却処分をしてください。

3 除草剤の秋期処理

「ふじ」の収穫後から落葉する前まで（落葉後は散布ムラが出るため）に除草剤を処理することで、翌年6月上旬頃まで雑草を抑えることができます（表3）。

しかし、秋は気温が低く除草剤の効果が出るまで時間がかかりますので、草が枯れないからといって再度処理する必要はありません。

なお、**収穫後に秋期処理した除草剤は、翌年の農薬使用回数に含まれます**ので注意してください。グリホサート系除草剤は、風などで舞い上がり樹体に付着すると、除草剤が直接付着しなかった枝でも春以降に葉が柳葉状になる薬害が生じることがあります。グルホシネート系除草剤は幹に薬剤が付着すると樹皮が粗皮状になり、幼木では枯死することもあります。除草剤を使用する際には、専用の散布器具を用いて飛散しないよう注意してください。

表3 除草剤の使用体系(秋期処理)

優占草種	1回目(11月)	2回目(6月上、中旬)	3回目(8月上、中旬)
強雑草	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)
弱雑草	吸収移行型 (少量散布) または接触型	吸収移行型 (通常散布)	吸収移行型 (通常、少量散布)

注1) 強雑草: タンポポ、クローバー、ヒメオドリコソウなど(除草剤の効きにくい草種)

弱雑草: ハコベ、メヒシバなど(除草剤の効きやすい草種)

注2) 吸収移行型: グリホサート系除草剤など

接触型: グルホシネート系除草剤など

注3) グルホシネート剤、グルホシネートPナトリウム塩剤は、「吸収移行型」と「接触型」の中間タイプであり、移行性はあるものの雑草の地下部まで枯殺する効果が期待できないため、使用体系においては「接触型」としての位置づけとしている。

4 ツキノワグマ対策

(1) 農作物被害防止対策

対策は、「まもる」・「よせつけない」・「つかまえる」の三本柱を総合的に実施することを基本とします。

ツキノワグマから農作物を「まもる」ため、ほ場周辺の電気柵は、確実に設置・運用してください。ワイヤーは、地面と平行に隙間なく、正しい高さで設置されているか点検します。なお、シカ対策用の電気柵は、ワイヤーの最下段が地上 40cm になっていますが、地上 20cm の高さに一段追加することで、ツキノワグマ対策を兼ねることができます。

「よせつけない」ためには、ほ場や集落、河川付近の茂みや耕作放棄地は、「草を刈る」ことで見通しを良くし、ツキノワグマの潜み場や休憩場をなくします。また、食べ物となる収穫残さは早期に処分します。

このほか、詳細は、令和 8 年農作物技術情報野生獣対策[第 5 号](#)（令和 8 年 7 月 30 日発行）及び[第 6 号](#)（令和 8 年 8 月 27 日発行）を確認してください。

(2) 人身被害防止対策

ツキノワグマの出没に十分に注意を払い、目撃したら速やかに市町村または警察へ連絡してください。

農作業時には、クマ鈴やラジオなどで音を出したり、手をたたいて声を上げたり、車から降りる前にはクラクションを鳴らすなど、人の存在をアピールします。

また、ほ場では、複数人で行動するよう心掛け、ヘルメットの着用やクマ撃退スプレーを携帯するなど防御に努めます。

ツキノワグマに遭遇したら、目を離さずに静かにゆっくり後ずさり、間に樹木などの障害物を挟みながら距離を取ります。背を向けて走って逃げないでください。撃退スプレーを使用する際は、風向きに注意します。

もしツキノワグマが攻撃してきたら、両腕で顔や頭をカバーし、地面に伏せて防御してください（図 6）。人身被害防止対策については、岩手県環境生活部自然保護課のホームページ「[ツキノワグマによる人身被害状況・出没状況](#)」も参照願います。



図 6 ツキノワグマ人身被害防止対策（岩手県環境生活部自然保護課ホームページ抜粋）

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 畜産

発行日 令和8年10月29日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大家畜 気温が低下するにしたがって、体温維持のためのエネルギー要求量が増えます。10～30%の増飼を行い、泌乳量の確保や繁殖機能の早期回復を促し、空胎日数100日未満での受胎を目指しましょう。
- ◆ 子牛 効果的な防寒対策と基本の環境管理を行い、発育の確保と呼吸器疾病等の発生を予防しましょう。

1 牛の栄養管理

牛は、暑熱ストレス以上に寒冷ストレスを受けている、といわれます。

また、牛が採食した栄養は、体内で使われる際に優先順位があり、生体維持→妊娠の維持（胎仔の栄養）→自身の成長（36か月齢くらいまで）→泌乳→栄養度（体脂肪蓄積）→繁殖（受胎）の順に満たされます。栄養が不足すると、繁殖（受胎）の遅れにつながりますので、給与飼料について再確認します。

ビタミンA、D₃、Eは繁殖機能に関与することが知られているほか、カルシウム、マグネシウムは、「筋肉の収縮と弛緩」「協力し合って骨を作る」「タンパク質を合成する」に関与するミネラルです。これらは、ストレスがかかるとビタミンやミネラルの消耗が激しくなり、要求量が増えます。

ポイント

- ・ 気温の低下に合わせて給与量を増やす
- ・ 温水を給与する
- ・ ビタミン類やミネラルを充足させる

(1) 寒冷期は空胎日数が長期化

県内の黒毛和種繁殖牛の空胎日数を受胎した月ごとにみると、空胎日数100日以下の割合は、11月から2月頃まで50%を下回り、月ごとの受胎頭数も少なく推移しています。（図1：モットー君通信簿8年6月配布データより）

そのため、寒冷期の栄養が充足しているか再検討し、早期受胎に努めます。

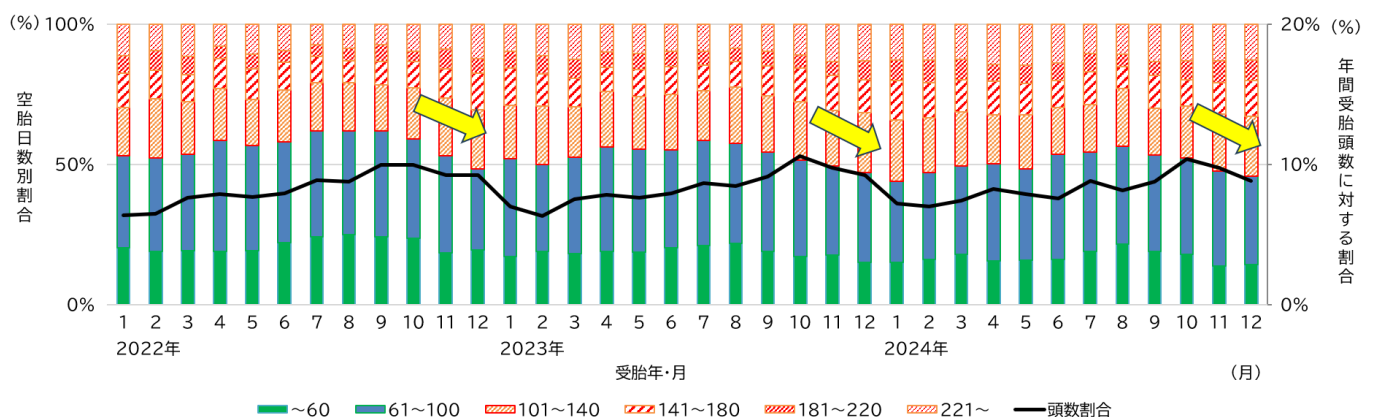


図1 月毎の受胎頭数割合と空胎日数内訳(モットー君通信簿8年6月配布より)

(2) 気温の低下に合わせた増飼

牛は寒さに強い動物ですが、気温の低下に伴って熱生産のためのエネルギー消費量が増えます。気温が0～-5℃の場合は、適温時（18～25℃）の30％程度、要求量が増えます（表1）。10～11月には気温に応じて10～20％の増飼を行います。

表1 成雌牛(体重 500kg)の養分要求量

気温	TDN(g/日)	適温時との割合(%)
18～25℃	3,270	100
0～-5℃	4,251	130
-5～-10℃	4,905	150
-10℃以下	5,559	170

*1) 黒毛和種妊娠牛の冬期屋外飼養技術（平成26年度岩手県農業研究センター試験研究成果書）より抜粋



*1) 黒毛和種妊娠牛の冬期屋外飼養技術（平成26年度岩手県農業研究センター試験研究成果書）はこちらからご覧いただけます

(3) 寒冷期の飼料給与の実際

寒冷期に増飼を行うと、泌乳や受胎のための栄養も充足し、早期受胎が可能になります（*2 黒毛和種における分娩間隔短縮のための寒冷期飼料給与プログラム）

TDN、CPとも満たされるよう、牧草の栄養成分に応じて、牧草のみでなく配合飼料や圧ぺんとうもろこしなども組み合わせて給与します（表2）。



*2 黒毛和種における分娩間隔短縮のための寒冷期飼料給与プログラム（令和4年度岩手県農業研究センター試験研究成果書）はこちらからご覧いただけます

表2 体重 500kg の成雌牛の給与例

適温時(18～25℃)	維持期		妊娠末期		授乳期(乳量7kg)	
	TDN	CP	TDN	CP	TDN	CP
要求量(g)	3,270	515	4,100	727	5,790	1,194
イネ科牧草(kg)*3	7.5		8.0		8.0	
繁殖牛用配合飼料(kg)*4	0.0		1.5		4.0	

寒冷時(0～-5℃) 30%増量	維持期		妊娠末期		授乳期(乳量7kg)	
	TDN	CP	TDN	CP	TDN	CP
要求量(g)	4,251	670	5,330	945	7,527	1,552
イネ科牧草(kg)*3	9.0		9.0		9.0	
繁殖牛用配合飼料(kg)*4	0.8		2.0		5.5	

*3イネ科牧草 TDN45%、CP7%として試算。

*4配合飼料 TDN70.1%、CP16.6%として試算。

2 子牛の防寒対策

子牛の快適な気温は、黒毛和種、ホルスタイン種とも、13～25℃です。平均気温がそれ以下になると「寒い」と感じます。ホルスタイン種の3週齢までの子牛の場合、体温の維持のためのエネルギー要求量は、環境温度20℃の時に比べて、0℃では26%、-5℃では66%も増えますが、それを補うためのミルクやスターターの摂取量には限界があります。

また、腹が1℃冷えると免疫力が8%低下するとの報告（表3）がありますので、飲み水を温めるなど防寒対策を行って、消耗を防ぎます。

ポイント

- ・子牛をぬらさない、冷たいものから遠ざける
- ・水分（ぬるま湯）の給与
- ・子牛を保温する
- ・環境の管理（換気、密飼いにしない、健康観察、牛舎消毒など）を励行する

(1) 子牛をぬらさない、冷たいものから避ける

子牛の寝床は「鳥の巣のように」といわれます。冷たいコンクリートの床に触れないよう、寝てほしい所に敷料をたっぷり敷きます。バスマットなど保温性のあるものを併用するのも効果的です。

水は、空気の20倍の熱を奪います。被毛が汚れると保温機能が失われるので、汚れた敷料は毎日こまめに取り替えます。

すきま風に当てないように、防風壁はL字型（2方向）に設置します。

スターターなどの固形飼料の消化吸收のために、飼料の4倍の水が必要です。哺乳の直前を避け、ぬるま湯を十分に給与します。

(2) 子牛を保温する

哺乳期は、カーフジャケット、ネックウオーマーを着せて保温します。加温器は、遠赤外線効果で体の内部まで温めることができるカーボンヒーターやハロゲンヒーターを設置します（投光器は、温める効果が低いばかりか、火災発生のリスクが高いので使用しない）。

夜は、60℃位の湯たんぽも有効です。

(3) 環境の管理

群飼いの場合は十分な飼槽を用意し、休息できるよう密飼いを避けます。

アンモニアやホコリで喉や気管の粘膜を損傷させないように、温かい時間帯に換気を行い、新鮮な空気を取りこみます。

昼間は日光により明るさを確保して健康観察を行い、下痢や疾病の早期発見・早期治療を励行します。

表3 子牛の飲水温度と第1胃内容物温度低下の関係

飲水温度	第1胃内容物の温度低下
7.8℃	-11℃
11.2℃	-2.8℃
26.7～37.2℃	-1～-1.6℃

ホーズデーリマン 2012年2月号より



写真1 敷料は、寝てほしい所にたっぷり敷く



写真2 コンパネは2方向に設置して防風
カーボンヒーターで保温する

(4) 疾病の予防

寒冷期には、呼吸器病や下痢が増えます。健康観察を行い早期発見・早期治療に努めます(表4)。

通常の管理のほか、ワクチン接種により母牛の免疫を高めておくことが効果的です。ワクチン接種はかかりつけの獣医師に相談してください。

ポイント

- ・分娩予定牛は分娩予定 1.5 か月前、0.5 か月前の 2 回接種する（翌年以降は 1 回）。
- ・子牛へは 3 ～ 6 か月齢のときに接種する。
- ・同居牛のすべてにワクチンを接種する。
- ・出生子牛へは初乳（初乳製剤）の給与により、移行抗体を獲得させる。

表 4 ウイルス性呼吸器病の特徴

	RSウイルス病	牛コロナウイルス病
発生時期	寒冷期が多い	主に寒冷期、子牛は年間
好発症月齢	年齢に関係なく発症する	新生子牛、搾乳牛
発病要因	導入時、地域での発生(伝播速度が速い)	急激な気温変化
発熱	5～6日続き、下がらないことが多い	あり
鼻汁	水溶性～粘性があり、多量	漏出
呼吸器症状	多量のあぶく状のよだれ 湿った感じの咳 粘り気のある痰 喘ぐような呼吸	発咳(呼吸器症状のみの場合もある)
下痢	通常は認めない	子牛は乳白色～黄色の水溶性下痢 成牛は淡褐色～暗緑色の水溶性下痢 (通常2～3日で回復)
特徴	目の充血や涙 一般症状の悪化 頭部・頸部・背部の皮下気腫	牛舎内で急速にまん延する 脱水(重症の子牛では死亡) 眼球陥没 四肢温度低下 一般症状の悪化 搾乳牛は急激な乳量低下



写真 4 多量の鼻水、よだれ



写真 5 水溶性の下痢

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第8号 野生獣対策

発行日 令和8年10月29日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 引き続きクマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ 冬期間の恒久電気柵の管理 積雪に応じた対策を実施します。
- ◆ 来年度に向けて 今年度の課題を来年度に向けて改善しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 今年度はブナの結実が「豊作」となったことから（表1）、クマが人里に下りてくることは少なくなるの見込まれ、9月のクマの出没件数も「ブナ」が大凶作だった昨年と比較し減少しています（図1）。
- ・ しかし、農作物などの味を覚えた個体は、山のエサの豊凶に関わらず人里に下りてくる可能性があるため、ほ場での出沒に注意するとともに、収穫物を狙ってクマが侵入しないように自宅や倉庫などの施錠を徹底します。
- ・ 今後も人身被害（図2）などのリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、クマ出沒状況アプリ「Bears」（図3）などにより出沒状況を確認するとともに、これまではクマの出沒がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

表1 年度別ブナ結実状況

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
結実状況	並作	大凶作	並作	大凶作	豊作

※ 東北森林管理局ホームページ資料より抜粋

※ 岩手県が「豊作」になるのは、平成27年以来11年ぶり

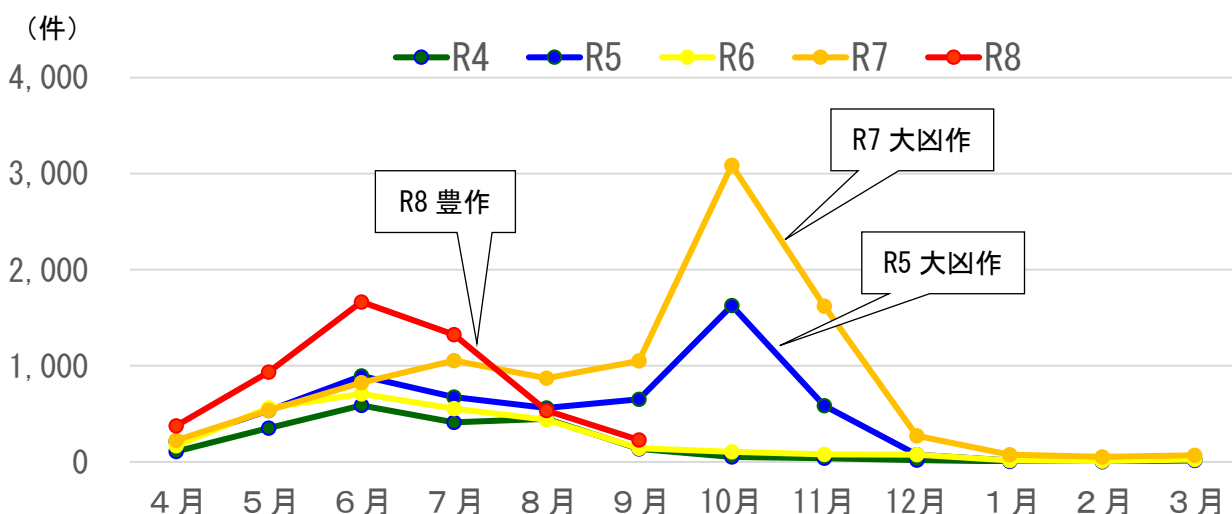


図1 クマの出没件数 (10/19 現在)

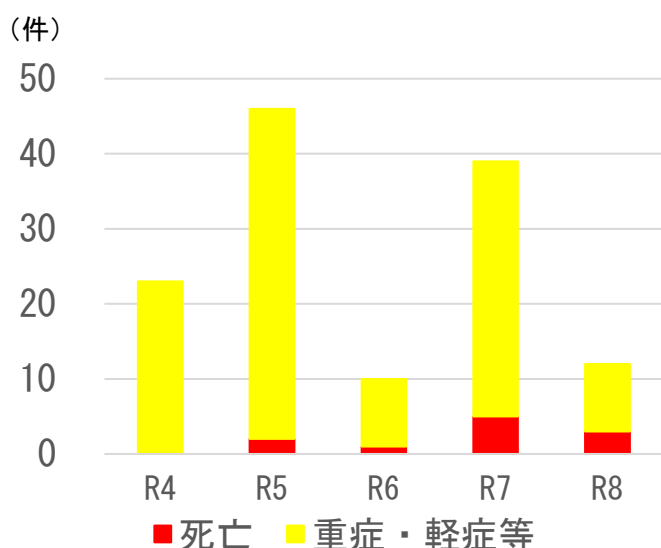


図2 クマによる人身被害 (8/29 時点)



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」



2 冬期間の恒久電気柵の管理

(1) 冬期間も継続して使用する場合

- りんご園でシカからの花芽の食害を防ぎたい場合など、冬期間も継続して使用する場合は積雪による漏電や破損の対策を行い、引き続き稼働させます (写真1)。
- 雪に埋まらないワイヤーのみに通電し、雪に埋まるワイヤーには電気を通さないため、通電しないワイヤーの結線は外します (図4)。
- 積雪が浅い地域では、通電させないワイヤーをそのまま雪に埋もれさせても問題はないと見込まれますが、積雪が深い地域では、雪でワイヤーが引っ張られ破損するリスクがあるため、積雪で埋まるワイヤーを地面に下ろします。
- パワーユニットは、積雪で埋もれない高さに設置するとともに、ソーラーパネルに雪が積もっていないか、バッテリーが弱っていないかなど定期的に点検します。
- 100Vコンセントを利用するタイプのパワーユニットでは、漏電遮断機を点検するとともに、トラッキング火災防止のためコンセントやプラグについたホコリを拭き取ります。



写真1 果樹園における恒久電気柵

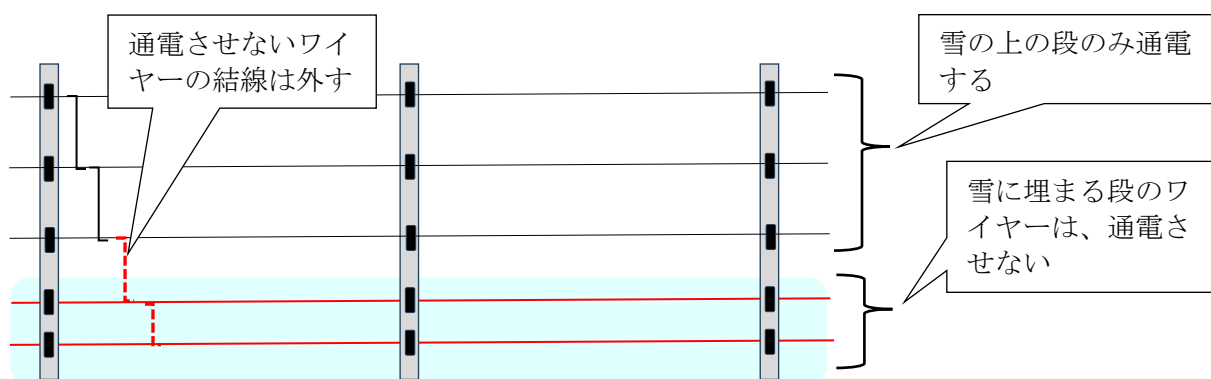


図4 積雪時の対応 (冬も守るべき作物がある場合)

(2) 冬期間には使用しない場合

- ・ 水田に設置している場合など冬に農作物を守る必要がない場合は、ワイヤーの緊張を緩め碇子から外し、全てのワイヤーを地面に下ろします（図5）。
- ・ 緩めたワイヤーの緊張具は、ワイヤーから外して持ち帰って保管するか、ほ場に残す場合は固定するピンを紛失しないよう、本体とピンをガムテープで巻いて固定します。
- ・ ワイヤーを外した碇子のピンは、外した状態のままでは雪に引っ張られ紛失する可能性があるため、また元の穴にピンを差し込みます。
- ・ 通電しないワイヤーを下ろさずにそのまま放置した場合、ワイヤーが雪に引っ張られて支柱ごと地面に埋まったり、碇子が破損するほか（写真2、3）、野生獣がワイヤーを安全なものと学習し電気柵が効かなくなるリスクがあるので、通電しない場合は必ずワイヤーを下ろします。
- ・ パワーユニットは、簡易柵と同様にバッテリーを外して室内で保管します（[農作物技術情報第7号](#)参照）。

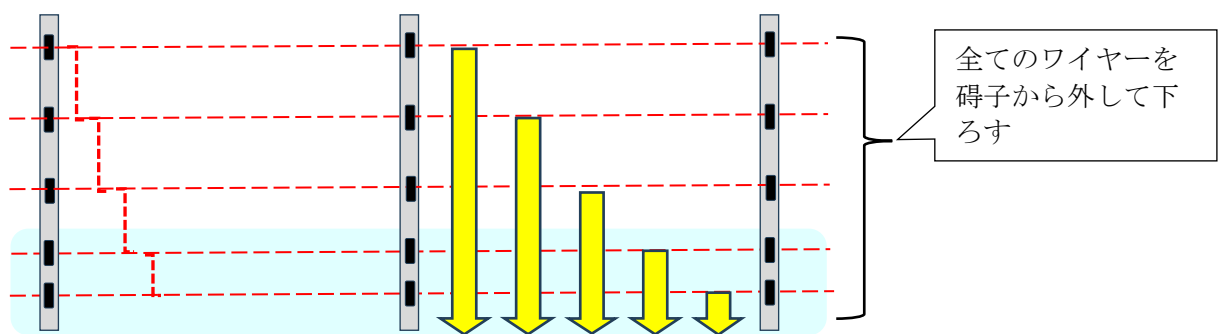


図5 積雪時の対応（冬期間には使用しない場合）



写真2 ワイヤーが雪に引っ張られ支柱ごと地面に埋まった電気柵



写真3 雪にワイヤーが引っ張られて破損した碇子

(3) その他

- ・ フェンシングワイヤーや単管パイプは耐久性が高い資材ですが、雪や雨で単管パイプの中に水が溜まり、碍子を固定するビスがサビて破損する場合があります。
- ・ その対策として、支柱下部にインパクトドライバーで水抜き穴を開ける（写真4）と、ビスのサビを防ぐことができますので、雪が降る前に実施しましょう。



写真4 単管パイプ下部に設置した水抜き穴

3 来年度に向けて基本技術の徹底を

- ・ 来年度の栽培に向け、今年度の被害状況等を踏まえた課題と対策を確認することが重要です。
- ・ 特に、県内では「侵入防止対策」として電気柵の設置が進んでいますが、電気柵が適切に設置されず、電気柵の効果を発揮できていない事例が多く見受けられています。
- ・ 今年度発行された農作物技術情報などを参考に基本技術を確認し、野生獣からの被害を防止できるよう来年度に備えましょう。

【電気柵の主な課題と対策事例】

① 電圧が不足している

→ 下草の除草、距離に応じたパワーユニットの選択、バッテリーの充電、アース点検と増設

② ワイヤーが獣種に応じた高さに設置されていない

→ シカ対策の4段（40、70、100、130 cm）からシカ・クマ兼用の5段（20 cmに1段追加）に改修

③ 地面の凹凸などにより野生獣が侵入できる箇所がある

→ 下がった箇所への支柱の追加による高さの調整、すだれ型のワイヤーの追加（写真5）



写真5 ポリワイヤー（左）とフェンシングワイヤー（右）を使った凹凸への対応

④ 緊張具を使用していないためワイヤーのテンションが不足している

→ 緊張具によりテンションをかける、ワイヤーからの負担が大きい角支柱の増強

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。